

ボランティア ニュース

No.367

廿日市市大野ボランティア連絡協議会

ボランティアのつどい

～認知症サポーター養成講座～



認知症を正しく理解し、温かく見守るサポーターのことを「認知症サポーター」と言います。廿日市市大野ボランティア連絡協議会(以下大野ボラ連)では、ボランティア活動がより豊かなものになるため、毎年「ボランティアのつどい」を開催しています。9月5日大野ボラ連で「認知症サポーター養成講座」を学びました。

困ったとき「助けて」と気軽に言い合える関係性が大切！！



大野の施設、ベにまんさくの里の広島県認知症介護指導者、遠藤さんから「加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れの違い」や、「物を覚える仕組み」を学びました。事例を聞いた後に、周りの人たちの正しい対応として、①ルーティーンを持つ②一度に一つのこと③ひとつの場所に置く④リラックスできる環境をつくる⑤近くの友人や家族がサポートする。優しく対応することで、地域で認知症の人も穏やかにその人らしい生活を送れることが分かりました。参加者からは、「65歳以上の高齢者相談は「包括支援センター」おおの」また、「認知症地域支援推進員」、「認知症初期集中支援チーム」があること。そしてどこに相談していいか分からないときには

高齢者の相談
包括支援センターおおの
TEL: 50-0251
よろず相談
廿日市市社会福祉協議会
大野事務所
TEL: 55-3294

「廿日市市社会福祉協議会」へ気軽に電話をしてもいいことが分かった、「安心した。元気なうちに知ることが出来たので、自分も進行させないためにも出来るだけ早い段階で相談しようと思った」という声がありました。また「まずは相手を知ることから。認知症になってから知り合うより、助けてと言える仲間を今、たくさん作る事が大切と聞き、改めて大野ボラ連で活動して良かった」との声がありました。

わくわく！ドキドキ！ 第31回ボランティア学園



おじいちゃん、おばあちゃんたちと食べたかき氷はとってもおいしかったし、配ったこと、手話歌をたくさんほめてもらったことが嬉しかった！

7月26、27日、8月7、8日の4日間、小学生を対象としたボランティア学園を開催し、大野西小学校、大野東小学校から34人の参加がありました。今年度も手話、点字、音訳を廿日市市大野ボランティア連絡協議会が、アイマスク・ガイドヘルプ体験を個人ボランティアが、講師として日ごろのボランティア活動や困っている人がいたらどうしたらいいかを伝えました。また、施設ふれあい体験をどちらも大野地域にある洗心園とアダージョが協力してくださり、福祉施設の見学や日ごろの活動などを体験しました。コロナ禍では出来なかった施設ふれあい体験が3年ぶりに開催でき、洗心園での夏祭りでは、子どもたちがかき氷や飲み物をお年寄りに配り、交流をしました。アダージョでは、パン作りと「カバちゃん」という機械を使って空き缶つぶしの体験をしました。仲間の作業も見学し、たくさん教えてもらいました。どちらの施設でもお別れの時には、手話体験で学習した「それ行けカープ」の手話歌を披露しました。



缶をつぶすときにジュースが残っていたら、とっても臭かった。これからは洗って出さないといけないなと思いました。

親子の居場所

「十人十色 おしゃべりサロン」

いろいろな理由で学校に行けていない子と保護者が集まって、情報交換ができる場です。自分のペースで過ごせます！

まずはおしゃべりしませんか？

参加費無料、時間内は出入り自由です。

【とき】

令和5年10月10日(火)11時～15時

令和5年11月10日(金)11時～15時

【ところ】

大野支所 3階 ボランティアセンター



おしゃべり会

障がいのある子どもを育てる保護者が集まって「おしゃべり会」を行っています。子育ての悩みを相談し合ったり、楽しくおしゃべりしたりと、さまざまな情報交換(…という名のおしゃべり)をしています。徐々に参加者も増えて賑やかになっています。小さなお子様連れも大歓迎です。

おしゃべりをしてリフレッシュ♪
楽しく一緒に過ごしませんか

次回 10月24日(火)

10時から12時

